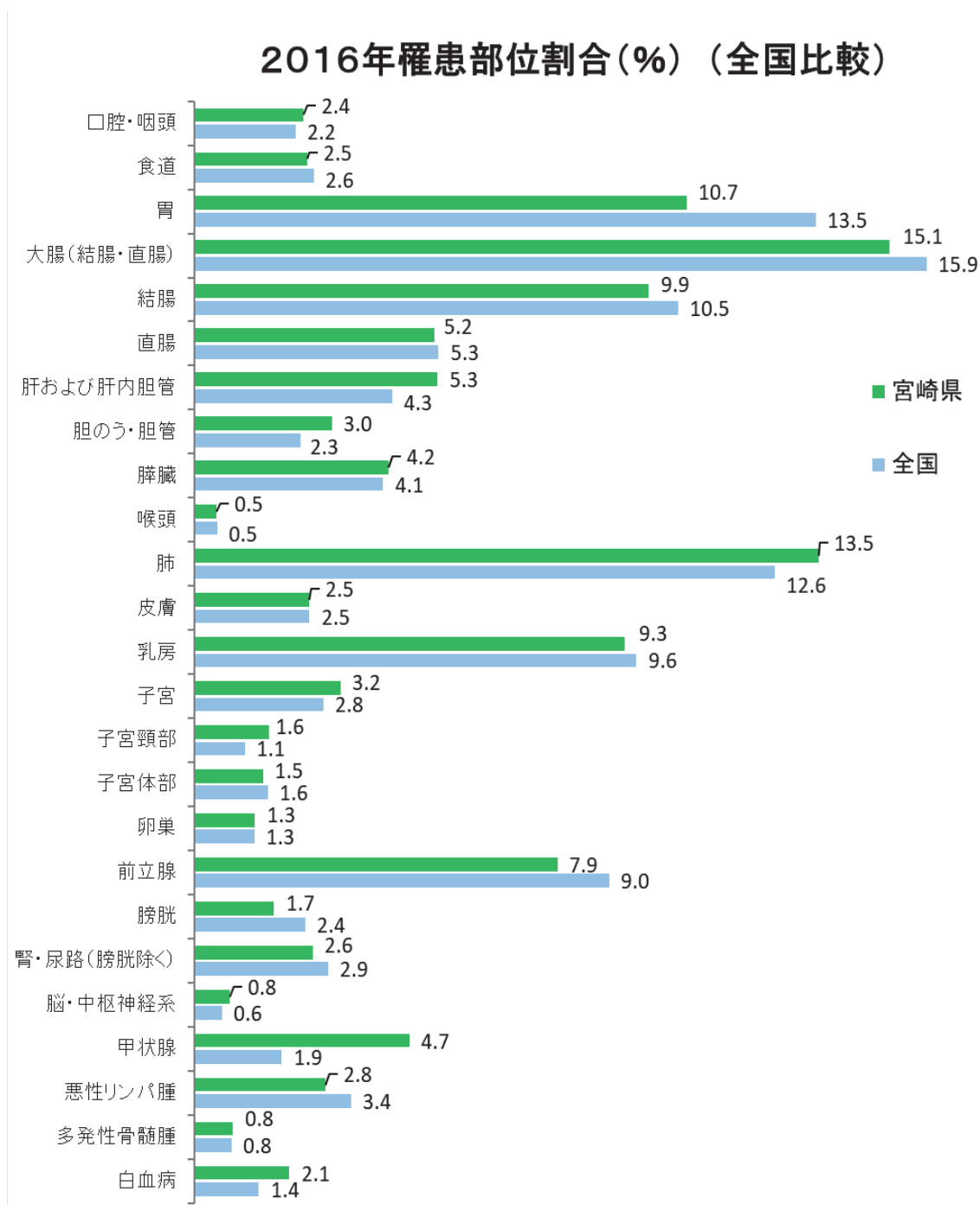


4 2016 年がん罹患の概要

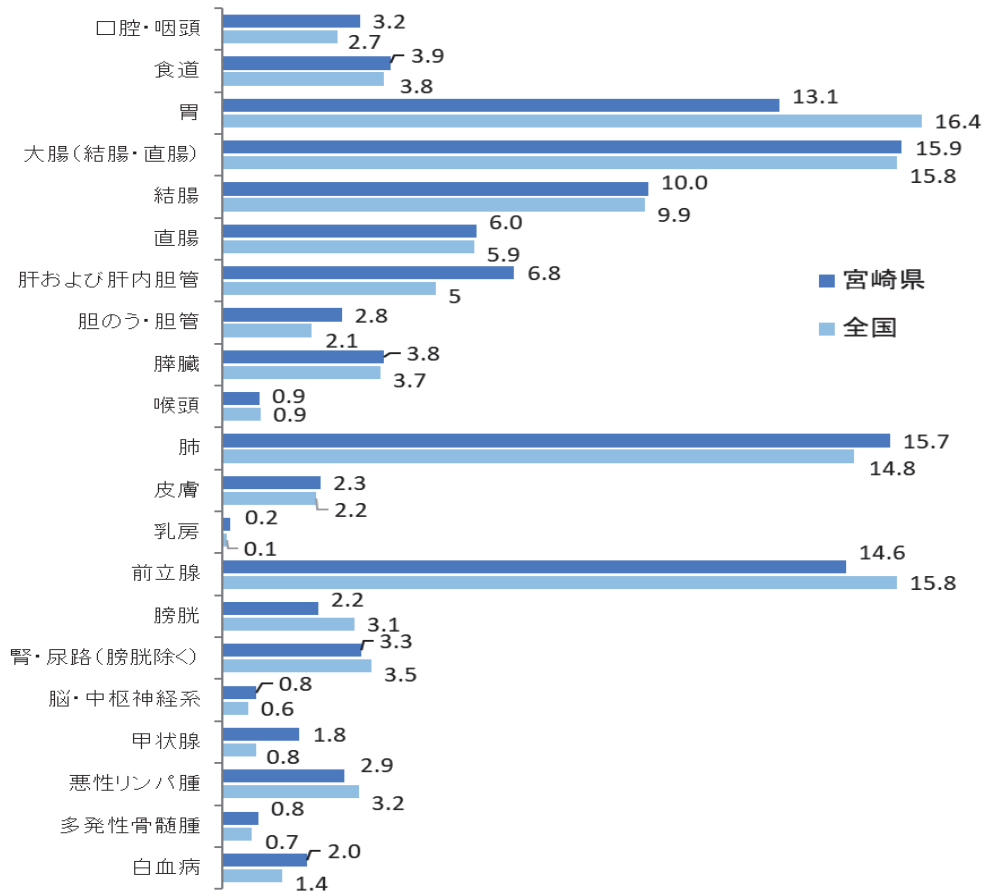
(1) 全体の概要 : 表 1 A (上皮内がんを除く) から作成

2016 年宮崎県のがん罹患数は、男性 5,204 件、女性 4,450 件の、合計 9,654 件であった。
 総計より、最も多いがんの発生部位は大腸(結腸・直腸)であり 15.1%、肺 13.5%、胃 10.7%
 と続く。男性では大腸 15.9%、肺 15.7%、前立腺 14.6%、胃 13.1%であり、女性では乳房
 20.1%、大腸 14.1%、肺 11.1%であった。

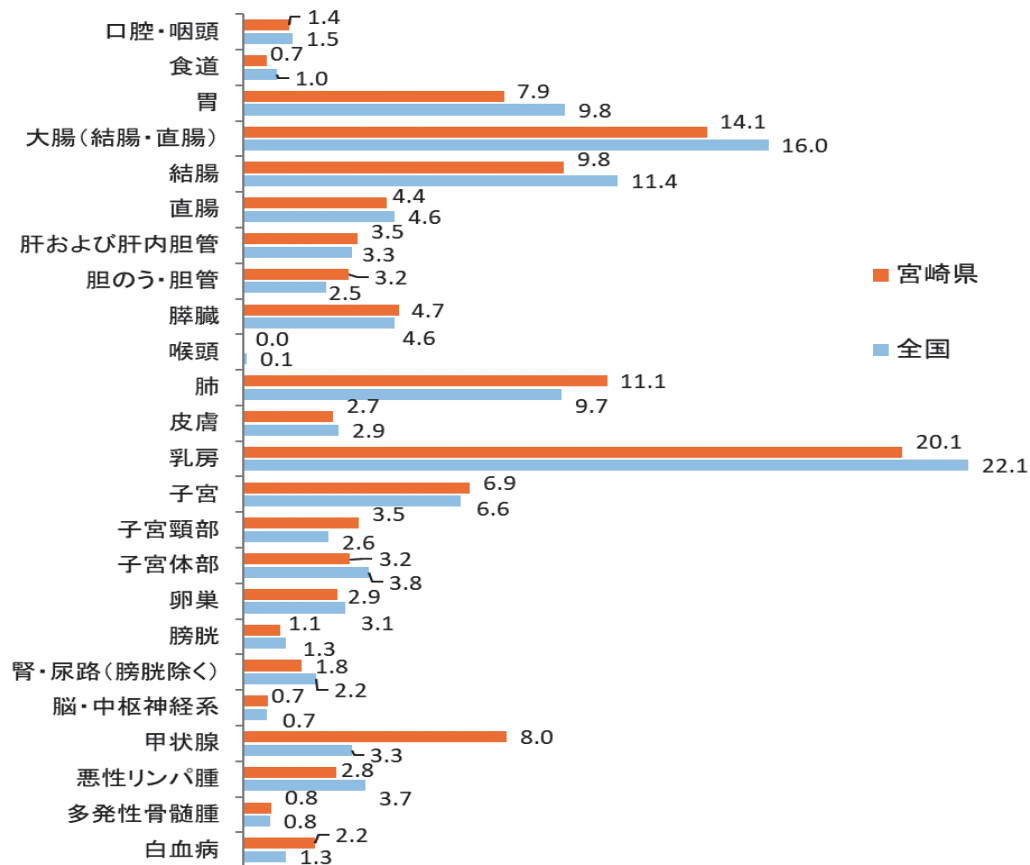


注意：宮崎県の甲状腺については、特定の医療機関において初回登録が多数あるため
 割合は高くなっている

男性 罹患部位割合(%) (全国比較)



女性 罹患部位割合(%) (全国比較)

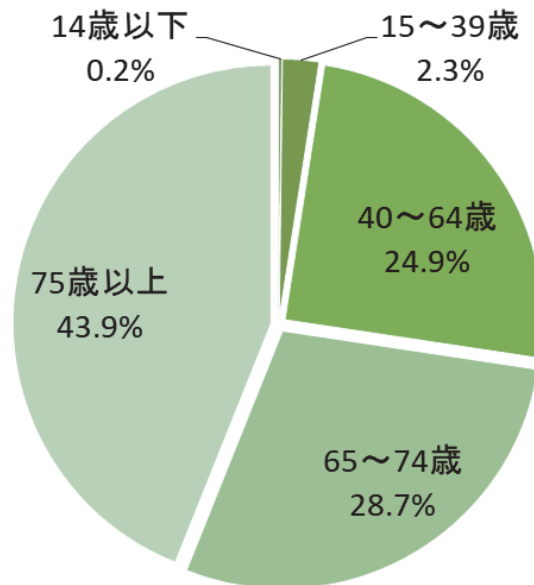


(2) 年齢階級別に見たがんの罹患 : 表2A(上皮内がんを除く)から作成

年齢階級別にみると、75歳以上の割合は全体では43.9%、男性44.0%、女性43.8%であった。働き盛りの40～64歳では、男性21.5%、女性28.9%を占めている。男性の60歳から前立腺がん、女性の40歳から乳がんの罹患数がそれぞれ増加している。

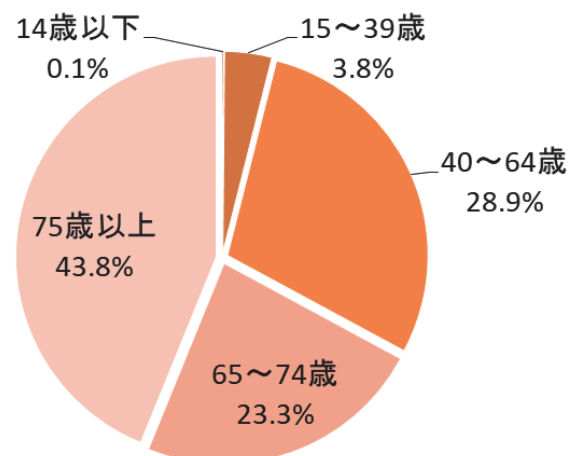
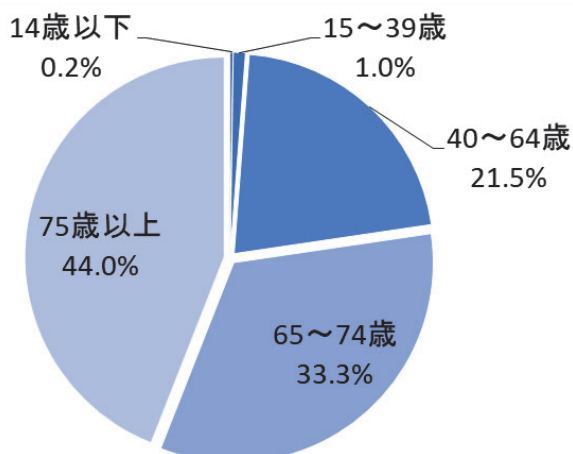
大腸がんは40歳から、また肺がんは50歳から徐々に多くなっている。

全体(件)	
14歳以下	18
15～39歳	220
40～64歳	2,405
65～74歳	2,769
75歳以上	4,242
合計	9,654



男性(件)	
14歳以下	12
15～39歳	51
40～64歳	1,117
65～74歳	1,733
75歳以上	2,291
合計	5,204

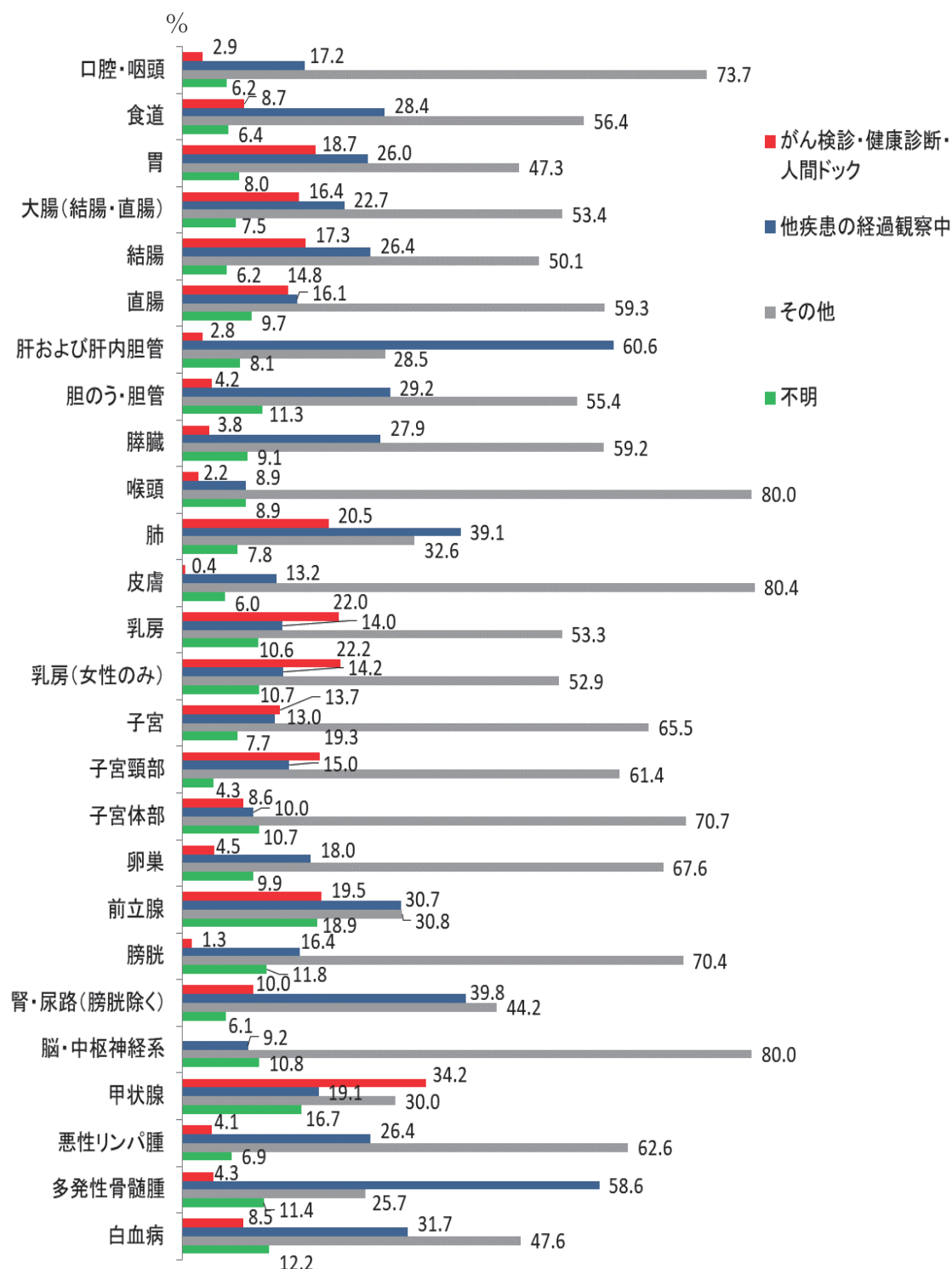
女性(件)	
14歳以下	6
15～39歳	169
40～64歳	1,288
65～74歳	1,036
75歳以上	1,951
合計	4,450



(3) 発見経緯から見たがんの罹患 : 表4A(上皮内がんを除く)から作成

部位別に見ると、肝および肝内胆管、肺、多発性骨髄腫は「他疾患の経過観察中」に発見された割合が高く、その他の部位では「その他(症状受診含む)」で発見された割合が高かった。

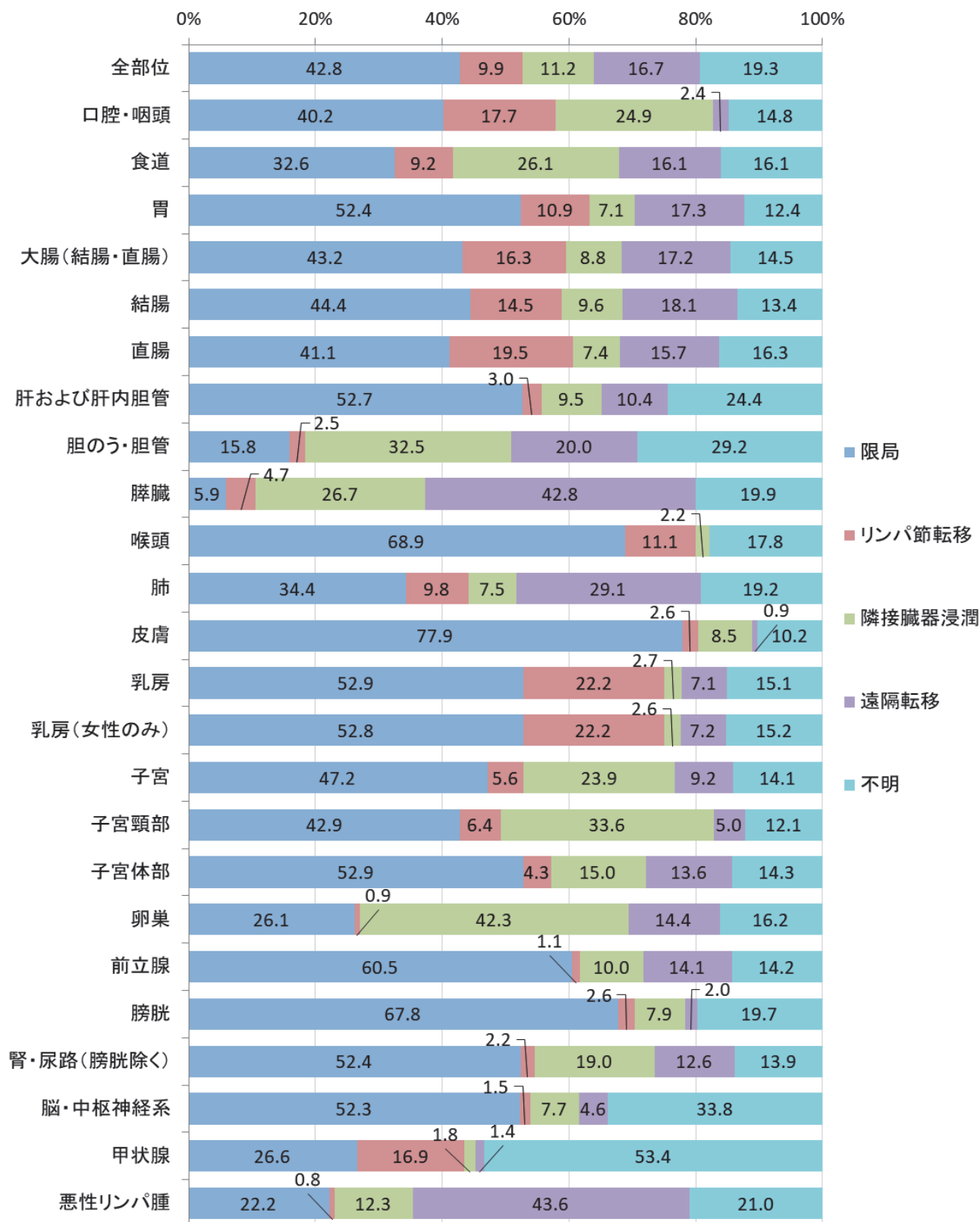
「がん検診・健康診断・人間ドック」を見ると胃、肺、乳房、子宮頸部、前立腺の発見割合が高かった。



注意：宮崎県の甲状腺については、特定の医療機関において初回登録が多数あるため「がん検診・健康診断・人間ドック」の割合は高くなっている。

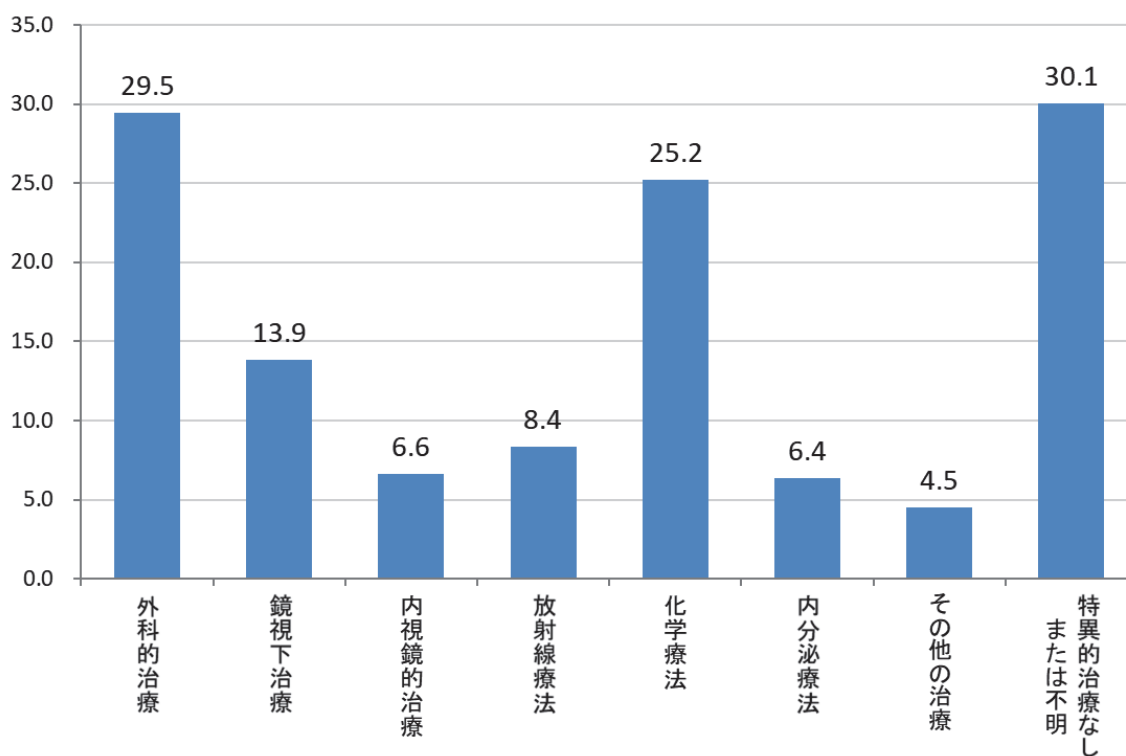
(4) 進展度分布から見たがんの罹患 : 表5-1A(上皮内がんを除く)から作成

全部位の進展度を見ると、限局 42.8%、リンパ節転移 9.9%、隣接臓器浸潤 11.2%、遠隔転移 16.7%、不明 19.3%であった。限局の割合が 50.0%以上の部位は、胃、肝および肝内胆管、咽頭、皮膚、乳房、子宮体部、前立腺、膀胱、腎・尿路(膀胱除く)、脳・中枢神経系であった。



(5) 初回治療内容から見たがんの罹患：表 6A(上皮内がんを除く)表 6B(含む) から作成
 上皮内がんを除く全部位の初回治療内容を見ると、外科的 29.5%、鏡視下 13.9%、内視鏡的 6.6%であった。また、放射線 8.4%、化学 25.2%、内分泌 6.4%であった。
 「上皮内がんを除く、含む」ともにそれぞれ重複を含むため合計は 100%にはならない。

全部位 8712件(上皮内がんを除く)の割合(%)



全部位 9513件(上皮内がんを含む)の割合(%)

